ピースボート福島子どもプロジェクト 2019 夏
～東アジア国際交流の船旅～

活動の記録

NGO ピースボート×ピースボート災害支援センター×南相馬こどものつばさ

特別協力：
LUSH Fresh Handmade Cosmetics

福島子どもプロジェクトとは

2011 年の震災後、NGO ピースボートと一般社団法人ピースボート災害支援センター(PBV)が、国際交流の体験を通して子どもたちに“夢と健康”を届けたいと、「福島子どもプロジェクト」を立ち上げ、実施してきました。
「夏休みアジアクルーズ」（2011 年 7～8 月）、
「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」（2012 年 7～8 月）、
「2013 春 in オーストラリア」（2013 年 3 月）、
「2014・春　異文化を体験するアジア国際交流の旅」（2014 年 3 月）、
「2015 年・春　海でつながるアジア　自然と歴史を学ぶ旅」（2015 年 3 月-4 月）、
「福島子どもプロジェクト 2016 夏　平和なアジアは友達作りから」（2016 年 7 月-8 月）
「福島子どもプロジェクト 2017 夏：南相馬から世界へ　海で繋がるロシア・韓国・日本」
（2017 年 7 月-8 月）
これまでに参加した子どもは 100 名を超えました。子どもたちは、放射能による制約のない環境下で、のびのびと過ごし、洋上や訪れる寄港地での国際交流を通じて、自分たちの夢や可能性を大きく広げる様子が伺えました。

プロジェクト呼びかけ人

加藤登紀子（歌手）
鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）
香山リカ（精神科医）
田中優（環境活動家）

パートナー団体

当プロジェクトは、2011 年の初回からずっと、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同会が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

■特定非営利活動法人　南相馬こどものつばさ

放射能の影響により、戸外での活動制限が続いた子どもたちを心身ともに解放したいという願いから、2011 年 6 月に南相馬市に発足。市内小中学校 PTA 連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子どもたちを保養プログラムに送り出す活動を続けている。

http://www.kodomonotsubasa.com/

福島子どもプロジェクト 2019　夏
～東アジア国際交流の船旅～

海外プログラムとしては 8 回目となる、「福島子どもプロジェクト 2019　夏　～東アジア国際交流の船旅～」が行われたのは 日本・韓国・ロシアの東アジア 3 カ国をめぐるこのクルーズ。

福島県南相馬市と相馬市の中学生 3 名が参加。釜山から石巻までの 12 日間（8 月 10 日～21 日）に合流しました。*

船上や寄港地で、数え切れないほどの出会いを経験し、課題に直面し、ひとまわり大きく成長して帰ってきました。言語の壁を越えて友情を築き、様々な背景を持った人と触れ合い、一人一人の多様性を受け入れることの大切さを学びました。

*天候の影響で知床半島クルージングと釧路寄港の代わりに、函館に寄港しました。

■福島子どもプロジェクト 2019 年　夏プログラムの特徴

○ アジアと出会う：　クルーズに参加をした中国、台湾、タイなど、アジア各地からの学生と交流。釜山（韓国）やウラジオストック（ロシア）ではそれぞれの国の言葉や文化、歴史に触れる。

○ 社会について学ぶ：　様々な背景の人と出会い、幅広い視野と将来につながる可能性を見つける。

参加者紹介

■参加生徒 福島県南相馬市/相馬市の中学生 3 名
相馬市立向陽中学校第 3 学年　高橋凜聖
南相馬市立鹿島中学校第 3 学年　桑折真斗
南相馬市立原町第三中学校第 2 学年　高澤璃乃

■スタッフ（ピースボート災害支援センター、NGO ピースボート）
上島安裕（仙台から釜山まで引率）
渡辺里香（プロジェクトコーディネーター、記録）
川崎哲（コーディネーター）

プログラム行程

■事前準備

○ 参加者・保護者説明会：2019 年 7 月 8 日（月）
鹿島農業環境改善センター（万葉ふれあいセンター）

■プログラム実施

2019 年 8 月 10 日（土）～8 月 21 日（水）／ 計 12 日間

日付	活動場所	活動内容
8/10（土）	釜山（韓国）	南相馬出発、陸路仙台空港へ 博多経由で釜山（韓国）到着 ピースボート（オーシャンドリーム号）に乗船
8/11（日）	洋上	船内ツアー
8/12（月）	金沢（石川県）	能登の里山里海の暮らしを体験するツアーに参加
8/13（火）	洋上	水先案内人・片岡英夫さんとのセッション 船内卓球大会に参加
8/14（水）	ウラジオストック（ロシア）	鷲の巣展望台からヨーロッパを感じさせる街を一望
8/15（木）	洋上	船の操舵室見学 広島出身の「おりづるユース特使」の 2 人とのセッション I
8/16（金）	小樽（北海道）	「原発の町・泊で考える暮らしとエネルギー」を考えるツアーに参加 スポーツデッキでサッカー
8/17（土）	洋上	広島出身の「おりづるユース特使」の 2 人とのセッション II
8/18（日）	函館（北海道）	函館山ハイキングと五稜郭見学
8/19（月）	室蘭（北海道）	室蘭市役所を訪問 室蘭が抱える課題やそれらに対する取り組みについて考える
8/20（火）	洋上	ピースボートでの 10 日間を振り返り報告会
8/21（水）	石巻	石巻にて東日本大震災の被災の経験について学ぶ

※ ピースボート日本一周クルーズ（2019 年 8 月 4 日～8 月 23 日／大阪発・神戸着 20 日間）の旅程については、以下を参照：http://www.pbcruise.jp/short_cruise/japan_cruise.html

旅の記録 ～出会い、学び～

8 月 10 日（土）【出発・仙台・釜山（韓国）】

早朝、南相馬・鹿島の「さくらホール」に集合。
南相馬こどものつばさ代表の西道典さん、内田雅人さんとの出発式。家族に見送られ、陸路で仙台空港へ。
仙台空港から福岡を経由して韓国の釜山へ。海外が初めてという子もいて、不安 8 割、期待が 2 割という様子で、3 名とも顔が強ばっていました。到着した韓国の釜山では、生タコを食べ、街を観光して船に合流。避難訓練後、初めての出港を楽しみました。

8 月 11 日（日）【洋上】

朝食後、初めてのチームミーティングをして、船内生活開始。船内を歩いてまわったり、水先案内人の講座に出ました。また、部屋をシェアするアジアや米国からの大学生と友だちになりました。

8 月 12 日（月）【金沢（石川県）】

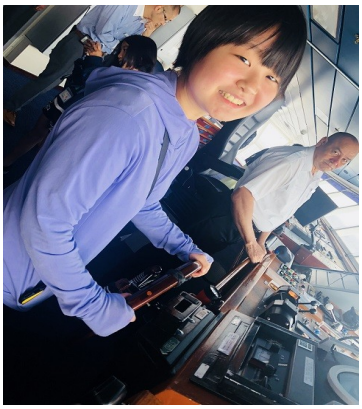
金沢では能登の里山・里海の暮らしを体験するツアーに参加しました。北陸の夏とは信じられないような猛暑の中、薪を割り、川では鮎狩りに挑戦。数日前の緊張した表情は吹き飛び、能登の自然の中で笑顔が弾けていました。

8 月 13 日（火）【洋上】

船内で講座を行う各分野の専門家を水先案内人と呼んでいますが、その中でも世界遺産検定マイスター・片岡英夫さんと昼食会。「福島県には世界遺産がある？」という質問に 3 人は目を合わせる、という場面も。その後は、生きることと学ぶことを楽しむ人生の先輩から中学生へのアドバイス。今の多感な時期を思いっきり生きるヒントを頂きました。

8 月 14 日（水）【ウラジオストック（ロシア）】

降り立ったのはロシアの不凍港・ウラジオストック。
「ロシアの中では冬も温かいので、ここにはたくさんの人が集まってきます」との現地ガイドさんの言葉に冬の気温を尋ねてみると、マイナス 30℃！これには驚きを隠せませんでした。ケーブルカーに乗って鷲の巣展望台からヨーロッパを感じさせる街を一望し、ボルシチやピロシキなどのロシア料理を体験。短い時間の中で、広大なロシアがヨーロッパとアジアに渡り横たわり、二つの地域をつないでいることを実感しました。



8 月 15 日（木）【洋上】

男子２人は、得意のサッカーで自主的に企画を立ち上げて、小学生や一般参加者とも交流。船の操舵室を見学に行ったり、船ならではの経験も重ねました。

8 月 16 日（金）【小樽（北海道）】

「原発の町・泊で考える暮らしとエネルギー」というツアーに参加しました。原発 PR センターである「とまりん館」を見学し、泊原発から 4km の防潮堤で 40 年間毎日海水温を計測している斉藤武一さんから話を聞きました。

運転を停止しているにも関わらず、メンテナンスや監視に費用がかかり続けることや、北海道電力の社員が近くの海岸で泳ぐことで原発周辺の海が安全であることをアピールしたこと。また海水が 0.1 度上がるだけで魚が湾に入って来なくなるというのに、これまでに 0.9 度も水温が上がっていることなど、多くの疑問を提示してくれました。

8 月 17 日（土）【洋上】

船内では、広島、長崎のメッセージを世界に発信するミッションを持って乗船している「おりづるユース特使」の２人と、2 回にわたって話す機会も持ちました。小樽の原発を見に行って感じたこと、今回の乗船のことをどんな風に感じているか、これからどんなことに挑戦したいか、など素直に意見交換しました。

広島出身で高校生の時から原爆や核兵器の脅威を多くの人に伝える活動をしてきたユース特使の２人から「広島と福島をつなげて考えたいんよ」と言われた時には、3 人はまだよく理解出来ていない様子でした。しかし、ある子が祖母の家が津波で流された経験を話すと「そう。そういう生の体験をした人が、これからどう語るかが大切なんだと思う」と言葉を受け、背中を押されていました。

8 月 18 日（日）【函館（北海道）】

函館山に登り、北海道の地形を確認。ハイキングを楽しみ、五稜郭では幕末の歴史を感じながら街を一望しました。

8 月 19 日（月）【室蘭（北海道）】

アジアやアメリカから参加している地球大学特別プログラム*の学生と一緒にプログラムに参加しました。

室蘭では市役所を訪問し、青山市長との意見交換会に参加しました。また、室蘭工業大学の清末教授から室蘭が抱える課題やそれらに対する取り組みについて話を聞きました。その後は日本製鋼所室蘭製作所の工場を見学。瑞泉鍛刀所では職人による伝統的な刀づくりを見せてもらい、思わず記念撮影。

*地球大学特別プログラム：ピースボートの船旅を活用した英語で行う平和教育プログラム。世界各国の若者が参加し、地球規模の問題を自分の問題として考える未来のリーダーを育成しています。

8 月 20 日（火）【洋上】

船内最終日にはこの旅の経験や、旅を通じて出会った人々との対話を経て、3 人が 12 日間で体験したこと、見たこと、感じたことを船内企画として発表しました。
少し緊張しながらも、「国際交流でも頑張って通じさせようとする自分も楽しかった。だけどなかなか通じなくて悔しかった」という中学生らしいコメントが出てきました。そして、泊原発を見学した話題から福島での漁業の現状、彼ら中学生が一年に一回ホールボディーカウンターで放射線量を調べていることなどを話してくれました。

8 月 21 日（水）【石巻】

料亭を営む阿部紀代子さんの案内による街歩きを通して、石巻市が受けた津波の被害や復興の現状を知りました。

石巻市かわまち交流センター（かわべい）では移動支援 Rera の代表の村島さん、そして利用者の伊勢さんから話を聞き、災害時にお年寄りや障害者が必要とする支援についても考えました。最後は石巻市復興まちづくり情報交流館を訪れ、館長のリチャードさんから災害の概要やご自身の被災の経験について聞きました。

主な成果 ～言語を超えた交流と平和～

コミュニケーションと異文化への興味、新しい目標

今回、寄港した大部分は日本の港でした。しかし、船で寝泊まりした部屋をシェアしたのは、アジアの様々な国や米国から来た地球大学特別プログラムを受講するお兄さん、お姉さん。彼らと共有した生活や会話の中で、「もっと英語を話したい」「もっとコミュニケーションを取れるようになりたい」というこれからの目標も出来ました。また、自分が将来なりたい職業の方に出会い、どのような勉強が必要なのかを聞く機会にも恵まれました。

小樽で原発を考え、石巻で地震と津波の被害を知る

クルーズの醍醐味である、寄港地活動は、非常に充実したものになりました。小樽では「原発の町・泊で考える暮らしとエネルギー」 というツアーに参加し、現地の方から直接経験や思いを聞くことができました。石巻では街歩きを通して、石巻市が受けた津波の被害や復興の現状を知りました。 被害にあった方から直接体験談を聞いたり、災害時にお年寄りや障害者が必要とする支援についても考えました。

子どもたち、保護者、同乗のクルーズ参加者の声（一部、感想文より抜粋）

「初めて日本を出て、色々な食べ物を食べることができて嬉しい。私はクルーズに参加するまでは特に夢はなく、サッカーが大好きだったのでサッカー関係の仕事でいいやと思っていた。今回の経験でもっと多くのことを学びたいと思った。」（参加者）

「今回の旅は、娘がこれから成長していく中で、自信になり、他人を思いやる気持ちになり、チャレンジし続ける原動力になると思う。」（参加者の保護者）

「普段の旅では訪れないような場所に行き、人を訪ねる中学生を見て、応援せざるを得ない。この経験が彼らの将来への扉を大きく開け、広い世界に飛び立って欲しい。」（ツアーに同行したクルーズ参加者）

生活と学びを共にした地球大学特別プログラムの学生たちと

パートナーからのメッセージ

「南相馬こどものつばさ」より

今年の福島子どもプロジェクトは、新元号に変わった5月1日の早朝に、敬愛するピースボート事務局からの1通のメールで始まりました。「急な話で申し訳ないのですが、この夏の日本一周クルーズで福島子どもプロジェクトを開催できないですか？」まさに青天の霹靂！わたしはすぐに、こどものつばさ内の主要メンバーと連絡を取り、プロジェクト実行へ向け動きだしました。
種々の都合により、今回は中学生3名・当地からの引率者なしという形態での実施となりました。催行人数としてはこれまでの最少で文字通り少数精鋭。いつも引率役の自分はもどかしさを感じながら仙台空港で手を振りました。
若年層が少ない日本一周クルーズで、終始面倒を見てくれたのが地球大学プログラムに参加するアジア各国のお兄さんお姉さん。日常生活から寄港地プログラムまで、日夜国際交流を果たします。これはピースボートならではの体験ですね！
国内各地・韓国・ロシアを経由し下船地の石巻で会った子供たちは、だいぶたくましくなっていましたよ。初めての飛行機・初めての海外と不安気な12日前とは全くちがった生き生きとした表情での再会でした。
船上や寄港地での数え切れないくらいの出会いや、様々な試練を通じて見出した自分の将来像に近づけるよう、少しずつ焦らずに日々進歩していってほしいものです。
最後に、今回のプロジェクト成功のためにご尽力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

南相馬こどものつばさ　内田 雅人

みなさまのご支援ありがとうございました

今回のプログラムは、多くの方々のあたたかいご協力ご支援のもと実現することができました。心より感謝申し上げます。

助成金
LUSH Fresh Handmade Cosmetics

おわりに

おかげさまで、2019年夏の福島子どもプロジェクトを無事終えることができました。ご支援、ご協力いただいた皆さまに、あらためて感謝申し上げます。
今後のプロジェクトの継続と発展のために、引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。
＜福島子どもプロジェクトへの募金＞
◇郵便振替
郵便振替口座 ： 00120-9-488841　※下6桁は右ツメ
口座名 ： 社)ピースボート災害支援センター
※通信欄に「フクシマ」とご記入ください

◇銀行口座
ゆうちょ銀行 ゼロイチキュウ店(019店) ： 当座0488841
口座名 ： 社)ピースボート災害支援センター
※振込依頼人の前に「フクシマ」とお書きください ⇒ 例)「フクシマ　ヤマダタロウ」
※三菱UFJ銀行、みずほ銀行についてはお問い合わせください

福島子どもプロジェクト　２０１９夏・活動の記録
【発行】NGO ピースボート／一般社団法人ピースボート災害支援センター
【編集】川崎哲、上島安裕、渡辺里香
【写真】内田雅人、渡辺里香、長谷川輝
【リンク】　ピースボート福島子どもプロジェクト
https://peaceboat.org/projects/fukushima_youth.html

この刊行物に関するお問い合わせはピースボート事務局までお願いします。
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場 3-1-1-B1
TEL：03-3363-7561　FAX:03-3363-7562　Email：info@peaceboat.gr.jp